

お茶の水女子大学リベラルアーツとFD公開シンポジウム

平成 20 年 9 月 17 日 (水)

文理融合リベラルアーツ科目を担当して

—担当教員によるパネル討議—

宗教と色・音・香（「色・音・香」系列から）

パネラー 頼住 光子（人間文化創成科学研究科文化科学系准教授）



私は、学部でいいますと文教育学部に所属しております、大学院でいいますと人間文化創成科学研究科の文科系に所属しております、頼住と申します。私自身の専門は鎌倉仏教の思想的な研究で、特に道元また親鸞などについて研究しています。リベラルアーツ科目としては、今年から「宗教と色・音・香」を担当しております。

この授業は、今年度入学した 20 年度生は、「宗教と色・音・香」というテーマで履修しますが、それ以前の学生につきましては、「倫理・宗教」という科目名になっております。先ほど棚橋先生も二重になっているとおっしゃっていらっしゃいましたが、私の方も二重になっております。

この「倫理・宗教」という科目は、もともと、一般教育の時代には「倫理」と「宗教」に分かれておまして、その当時のことを知る先生に伺いましたところ、「倫理」が 2 単位で「宗教」が 4 単位で、合計して 6 単位あったということです。それを、教養教育の改革の過程で、いろいろとスクラップ・アンド・ビルドを繰り返し、最終的には「倫理・宗教」というように一つの科目にまとめたという経緯がございます。こしばらしくは、「倫理・宗教」で 2 単位となっておりますが、今回リベラルアーツへと組みかえる過程で、この「倫理・宗教」がまた分かれ、隔年で「倫理」と「宗教」の授業をすることになりました。具体的に申しますと、今年は「宗教と色・音・香」の授業をして、来年度は「生命倫理」の授業をするということになります。授業としては、形式的にも内容的にもかなり大きな変化があったということです。

今回担当させていただきました「宗教と色・音・香」という授業ですが、いくつかの狙いをもってあります。まず大きくいいますと、宗教に関して入門的な講義するということと、「宗教と色・音・香」というテーマに沿った講義をすることという狙いがございます。昨年、リベラルアーツ科目をテーマにそって検討し、さまざまな科目群を組み合わせていく過程で、全部新しいテーマに沿って話をしてもいいし、今まであった科目を活かしながら、それにプラスアルファという形でテーマを話してもいいというようなことを伺っていました。これまであった「倫理・宗教」の授業では、倫理の基礎は宗教にあるということもあり、また私自身が宗教哲学を研究しているということもあって、主として「宗教」に関する講義を行っていたのですが、その宗教に関する講義ということを踏襲しながら、今回からは、プラスアルファとして「色・音・香」についても言及するという方向で新たな授業を組み立てました。なぜ、「色・音・香」というリベラルアーツとしての共通のテーマをプラスアルファとしたのかと言いますと、全学の学生が取ることができる宗教に関

する入門的な授業は、この授業だけだとう事情があったからなのです。

宗教の問題というのは現代社会を考える上で大変重要な問題だということがありますので、宗教入門というところを抜いて、すべての時間を「宗教と色・音・香」、例えば儀礼の話ということだけで構成するのは、もちろん私自身の能力的にも不可能だということもありますが、学生にとって儀礼の話だけを聞いても、宗教についてごく一部しか分かったことにならないだろうと思いました。また私自身は宗教哲学的な立場から宗教を考えているわけですが、宗教にとって感覚的な要素というのは第一義的なものではない、むしろ、色・音・香という感覚的にとらえられるものを越えた超越的領域が宗教の本来のフィールドであるという事情が、このような授業の構成を取っている一番大きな理由ではないかと思います。このようなことを考慮いたしまして、基本的には今までやっていた宗教に関する入門的なお話を、それにプラスするかたちで宗教儀礼の話をするということをしてあります。

お手元にお配りしております資料をご覧ください。そこでは①～③に分けて授業の狙いについて説明しております。

お茶の水女子大学リベラルアーツとFD公開シンポジウム
担当教員によるパネル討議
文理融合リベラルアーツ科目を担当して—宗教と色・音・香—
文教育学部准教授 頼住 光子

【担当科目】

「倫理・宗教」→「宗教と色・音・香」「生命倫理」を隔年でこれまでの「倫理・宗教」では、倫理と宗教とは密接に関連しているという観点から、おもに世界の諸宗教について講義し、必要に応じて宗教倫理についても紹介するというかたちをとっていた。

（ちなみに、さらに前は、「倫理」2単位、「宗教」4単位だったとのこと）

【授業のねらい】

- ① さまざまな宗教の教理・歴史・現代的意義と問題について基本的な知識を理解させる。（扱う宗教としては、仏教、キリスト教、イスラーム、儒教、神道）
- ② 知識理解を通じて、宗教的寛容の態度を育成する。
- ③ 「宗教と色・音・香」というテーマにそって、宗教（とくに宗教儀式）における感覚的要素を示し、その意味や象徴的含意を理解させる。

①②については、これまでの「倫理・宗教」においても重視してきた。今回「宗教と色・音・香」という科目群に参加したことによって、これまででは、あまり扱う余裕のなかった③の儀礼をクローズアップして扱うことになった。

ただ、本講義は、お茶大のコア科目の中で唯一、宗教を中心に取り上げて、世界の主だった宗教の教理や歴史などを紹介する「宗教入門」の意味をもった科目であり、その意味や役割は大きいと思つたので、「宗教と色・音・香」というテーマではあるが、宗教入門の内容を軸として、その上で、それぞれの宗教において感覚的要素がもつ働きを説明した。

また、私自身の依る宗教哲学的立場からは、感覚的要素はむしろ一義的なものではなくて、目に見えない神仏などの非感覚的、超感覚的な「究極的なもの」のあらわれとして、感覚的なものが成立するという点も、このような講義の構成を要請するのである。

【新たに取入れた授業方法】

これまででは、教理や歴史の説明ということで、必要に応じて資料を配布していたが、今回、宗教儀礼を取り上げるにあたっては、ビデオを活用した。私自身の研究室で所有している「日本の歴史と芸能」（平凡社）のビデオの中から、仏教「大蔵寺の練供養」、神道「大田神社の巫女舞」「春日大社の巫女舞」を上映し、そ

まず、①として、さまざまな宗教の教理・歴史・現代的意義と問題について基本的な知識を理解させるということがございます。世界の主だった宗教、また日本人としてぜひ基本的に知っておかなければいけない宗教を選びまして、それについてどういう宗教なのかという輪郭、現代的な社会においてどのような役割を果たしているのか、またさまざまな歴史とか教理の問題について概説的に説明をしております。扱う具体的な宗教名としては、仏教、キリスト教、イスラーム、儒教、神道などです。2単位30時間でこれだけの宗教について話しますと、かなり盛りだくさん内容になります。教科書は、『人間の文化と宗教』（北樹出版）を使っております。この教科書は、私とあと何人かの宗教研究者の方で執筆したものです。私は仏教を担当していますが、この教科書を使って、比較宗教学的な観点も取り入れて、さまざまな宗教について学生の理解を促すということがまず第1点の狙いとしてございます。

次に②についてご説明いたします。これは大事なことだと思うのですが、知識の理解を通じて宗教的な寛容の態度を学生の中にぜひ育成したいと思っております。授業で扱う具体的な内容としては、①の宗教に関するさまざまな知識といったようなことが中心となっては来るのですが、ただ単に知識を身につければよいということではないと思います。なぜ、知識を身につけなければならないかということ、自他の宗教や文化に対する理解を深めることで、他者の宗教を認め尊重しあう宗教的な寛容の態度が養成されるからなのです。理解と尊重のためにはまず「知る」ということが不可欠なのです。②の宗教的な寛容についてだけ集中的に言及することはあまりありませんけれども、基本的な構えとしてそういうことを学生に伝えたいという気持ちをもってこれまで授業をしてまいりました。

③として、「宗教と色・音・香」という今回のリベラルアーツの共通のテーマに沿って、宗教について、特に宗教儀礼を取り上げました。感覚的な要素がどのように宗教の考え方を反映しているのかというようなことをお話ししました。その感覚的な要素の意味とか、象徴的な含意とか、そういうものについて、幾つか具体的な例を挙げながら授業をすすめて参りました。

①②については、これまで行ってきた授業においても重視して参りましたものです。コア科目の「倫理・宗教」においては①②だけを基本的にして、儀礼については必要に応じて多少触れるという程度で、あまり触れてこなかったのですが、今回「宗教と色・音・香」というリベラルアーツLAの科目群に参加したことにより、これまであまり扱う余裕のなかった③の儀礼の部分をかなりクローズアップして、学生たちにお話しするということになりました。

ただ、先ほども申し上げましたように、儀礼のことだけを知っても宗教について理解したとはいえません。儀礼の背後にあるものが宗教にとっては重要なのです。目に見えない神とか仏とかそういうものが宗教の一番中心軸になるわけです。非感覚的、超感覚的なものというのが中心であり、そのようなものの現れとして感覚的なものが成立するということを踏まえるならば、非感覚的、超感覚的なものの方を話さないと、なぜこういう感覚的なものがあるのかということが理解できないということがございまして、そのような必然性からこういう授業の形式を取っているということも、私にとってはかなり切実なこととしてございます。

今回新たに授業のための準備として力を入れたのは、授業の狙いの③になります。これまでは教理とか歴史の説明ということで、必要に応じて資料を配布しておりました。いろいろな図版や表や原典のテキストのコピーなどを配布しておりましたが、今回、宗教儀礼を取り上げるに当たっては、紙媒体の資料だけでは不十分だと思いました。儀礼については、やはり実際を見ないと分からないということが大変に多いのです。香についてはビデオでも伝わりませんので、口頭で説明するに留めましたが、色と音については、具体的な現物を見たり聞いたりしていただくというのが一番効果的だと思いましたので、ビデオを活用しました。

これまでは、私は自分の講義でビデオなどのビジュアル的な教材を使ったことはありませんでした。私の研究者としての中心的な仕事は、テキストの読解に基づいた宗教哲学でして、たとえば、道元『正法眼蔵』や親鸞『教行信証』などを主な対象をしておりますので、あまりその必要性を感じなかったわけです。しかし、この「宗教と色・音・香」の授業にあたっては、ビデオを使うということで、かなり自分自身もいろいろな宗教儀礼のビデオなどを見て、学生に分かりやすいのはどれか、その宗教の本質を分かってもらいやすいのはどれかという観点から、幾つか選定しました。ただ、あまりそういう観点から宗教的な儀礼を適切に扱っているビデオがなく、その点で苦慮いたしました。結局、私自身の研究室で何年前に買って所有していた「日本の歴史と芸能」という平凡社から出ているビデオのシリーズがありまして、これが大変役に立ちました。

そのシリーズの中で何巻かが宗教的な儀礼を記録したビデオです。時間が限られておりますから、かなり短い時間、たとえば5分とか10分とかの儀礼で、しかも学生が飽きないで見ていられる、また宗教的な象徴性が非常にはっきりとした形で分かるビデオということで、仏教儀礼のビデオとしては「大麻寺の練供養」、神道儀礼のビデオとしては京都にある「大田神社の巫女舞」、奈良の「春日大社の巫女舞」を上映いたしました。

ビデオを使うに当たっては、まず学生に基礎知識として、その儀礼はどういうものなのかということ、大まかにお話しした後、実際にビデオを見ていただいて、その後でもう一回説明して確認するというような形ですすめました。つまり、ビデオを見る時間に加えて、それを見る前と後で説明をいたしましたので、ビデオを上映した回の講義に関しましては、かなり授業時間に占めるビデオ関連の時間の割合は多くなりました。

具体的には、どのようなビデオ映像であったのかということ、例えば「大麻寺の練供養」は、浄土思想に基づく儀礼で、浄土と穢土をそれぞれのお堂に振り分けて、その間に橋を渡して、それで極楽浄土に往生するということをビジュアル的に見せるわけです。仏が金色に輝く姿で、実際に着ぐるみみたいなものを着て出て歩いていたり、また読経の音が非常に効果的に使われていたりとか、そういうところを実際に見てもらったのです。

学生に後でアンケートを取りましたところ、学生も、二つのお堂とその間の橋が示す象徴性についてはきちんと掴んでいましたし、あと私が気付かなかったような点、たとえば儀礼の行われる時間帯の意味などを指摘してくれる学生などもいたりまして、学生にとっては興味深いビデオだったのではないかと思います。また、かなり質問等も出まして、ビデオなどを上映した後、学生から内容的

なことについて確認の質問などいろいろございました。

この授業では、ビデオを上映するというので、TA(ティーチングアシスタント)を付けていただいていた。このTAが非常によくやってくれました。ビデオ上映のときに、私も初めてビデオを上映するので心配だったので、ちょうどこの部屋になりますが、学生と一緒にリハーサルをいたしました。機器がちゃんと動くかとか、私がちゃんと機器を扱えるかとか、2人で練習をいたしました。

また、この授業は例年200人ぐらい登録する授業なのですが、今年は4月の時点で400人程登録されていました。今まで宗教学入門という形の授業が毎年あったのが、今年度から隔年になるので、それで学生が2倍来てしまったのではないかと思います。レポートの回収や資料配布などが大変でしたが、そのようなときにもTAの学生がとても力になってくれましたので、こういう形で授業をするというときには、TAが大変に大きな力になるということを本当に今回、身をもって知りました。今まで200人の授業では特にTAは付いてなくて、それでも何とかできていたのですが、やはり400人となるとTAがいないと厳しかったらと思うしております。

この授業は、例年は夏休みにレポートを書いてもらって、それを採点して単位を出しておりました。今年もそのつもりで、シラバスにも夏休みにレポートを課すということを明記しておりましたし、最初のオリエンテーションの時間でもそのように説明しておりました。

例年ですと、夏休み前の授業では、レポートを書くための資料の収集の仕方とか、例えばインターネットの情報については、こういう形で扱ってほしいとか、そういうことについてかなり詳しくお話ししておりました。受講生のうち1年生が大きな割合を占めますから、大学生になってレポートを書く、その心構えや情報を収集し整理し、自分なりに検討する基本的な方法についてもお話していたわけです。今回もそのような形で単位認定をするつもりだったのですが、400人ということで、今までと同じような形で夏休み明けのレポートの提出ではとても採点が間に合わないということが分かりまして、急遽、授業の最後のときに提出してもらおうということになったのです。

ただ、授業の最後のときにレポート提出というのは、その前の週まで普通の授業をしているわけですから、学生にとっては非常に時間的に厳しくものになってしまいます。レポートを読んでみると、いつもの夏休みに書いていただくレポートに比べると、表面的な記述が目立ちましたので、その辺、これからどのように単位認定をするか考えております。

今まではアンケートを取ったり感想を書いていただくなどして出席を確認したりしていたのですが、これから400人規模で授業が続くとすると、それもそうたびたびはできなくなります。受講者数の増加に伴った単位認定方法をどうするかということについては、今後の私の課題だと思います。先ほど棚橋先生のご発表で試験についてもご紹介いただきましたが、私自身、今後試験ということも選択肢にいれなければいけないのかなと考えております。どちらにいたしましても、まだ、もう少し時間をかけて考えたいと思っています。

あと私自身の課題といたしましては映像資料です。今回はキリス

ト教とイスラームについてもお話ししたいということで、幾つかビデオを見まして、一応授業の前の日まではこれでやろうかなと思っていたのですが、ちょっと問題が多いなと思いついて、結局やめてしまったということがあります。どういうことかといいますと、儀礼のビデオで適当なものなかったの、礼拝堂だけでもお見せしようかと思って、礼拝堂のビデオをいろいろ見ましたところ、何とか学生に見せられそうなものがイスラームとキリスト教とそれぞれあったのですが、キリスト教の場合には教会の中を観光客が見学している映像で、イスラームの場合はモスクの中で、信者がぬかずいて礼拝している映像だったのです。これはあまりにも学生に変な先入観を与えかねないと思いついて、それで散々迷って、結局やめてしまったのです。その辺りはやはり適切なビデオを見せないと、かえって変なメッセージを学生に与えてしまうということがありますので、自分としてももう少し適切なビデオ資料を今後探していきたいと思っております。

それぞれの背景となる信仰内容について説明した。
学生はかなり興味深く見ていたように思う。

また、今回はじめてこの科目にTAをつけていただいたが、レポート回収の際の仕分けやビデオ機材の整備、資料の配布などでたいへんにたすかった。今後も、ぜひ、TAをお願いしたいと思う。

【今後の改善のために】

映像資料の調査が必要(特にキリスト教、備前など)
講義の受講者数が多いので、単位の認定方法や板書の仕方を工夫する必要がある。

【その他対カルト予防安全教育】

今回のリベラルアーツへのコア科目の編成変えによって、宗教を扱う科目が隔年の開講になった。宗教的知識教育は、対カルト予防安全教育という観点からも重要だと思われる。今、各大学では対カルト予防教育に力を入れている。(たとえば大阪大学は今年から全1年生に対カルト予防安全教育のための講義を取りレポートを提出することを義務付けた)正しい知識を知ることがまず予防のための第一歩であり、そのことから、本学のコア科目において適切なかたちで宗教に関する講義がなされることを願う。

まだ少し時間がございまして、補足的なお話ししたいと思います。お手元の配布資料の「その他」というところをご覧ください。今回のリベラルアーツへの編成替えによって、宗教を扱う入門的な科目が隔年開講になりましたが、宗教に関する授業というのは、学生にとって非常に重要だと思っているのです。どういうことかといいますと、今はいろいろな大学で、対カルトの予防安全教育というものがかなり熱心に行われております。例えば大阪大学では報道等がございましたので、先生方もご存じの方が多いと思いますが、今年から全1年生に対して、対カルト予防安全教育のための必修の講義を取らなければいけない、レポートを提出しなければいけないということを義務付けたわけです。


それだけ大学としての危機感が強いのだと思うのですが、お茶大は、幸い今のところ、私が知っている範囲ではカルトについての大きな問題は起こってはいないと思います。ただ私どもの目から見て起こっていないだけであって、水面下で何があるのか分からない面も非常にございます。特に今はインターネットでの勧誘などが非常に盛んですので、全く人間関係のないところからぱっとカルトに入ってしまうというようなことがあります。

今回私が行いました「宗教と色・音・香」の授業では、本来の内容だけで時間が足りないという状況でしたので、カルトの問題についてはあまり触れられませんでした。「道徳教育の研究」の授業のときに若干触れたりすることはあるのですが、ただ「道徳教育の研究」というのは、教職を取る学生しか取りませんので、全学的な開かれた形でのカルトに対する何らかの予防安全ということを意識した授業が今後必要になってくるかと思っております。私の宗教入

門というのは、別にカルトのことを中心的にお話しているわけでもありませんが、まず正しい知識を知ることが予防のための第1歩だということが言えると思います。

宗教についてはグローバル化し異文化交流が盛んになるにつれて、さらにその重みが増してきています。そのような状況を踏まえて、本学のリベラルアーツ科目においても今後宗教に関する講義をどのようなかたちで行うのが適切なのかをさらに検討されていってほしいと思っております。

以上でございます。ご清聴ありがとうございました。




お茶の水女子大学
Ochanomizu University

21世紀型文理融合リベラルアーツ

ハイカラさんは、いつも時代の先陣を走っていました。いまも

HomeAboutGuidanceEventsBooksColumn

HOME > コラム・現場の声 > 色・音・香8 宗教と色・音・香




色・音・香8 宗教と色・音・香	
クラス	全学科
履修年次	1～4年
授業形態	講義
単位数	2.0
学期	前期
曜日	水曜
時限	1.0～2.0
教室	共通講義棟2号館 201室
講義	倫理・宗教 (基礎講義科目)

色・音・香8 宗教と色・音・香：頼住 光子[文教育学部 人文科学科 哲学]

Ⅱ LA科目をスタートして
私のスタンスが大きく変わりました。昨年度までは倫理宗教という基礎講義科目ということでやっていまして、この授業も基本的には同じなんです。リベラルアーツ科目の「色・音・香」という感覚的な要素を、私も勉強して授業に取り込んでいます。それと、今までは視聴覚教材は使用していなかったのですが、今年度からは視聴覚教材を使用して、感覚的にわかりやすくやっています。各々の宗教儀式のビデオや宗教音楽、建築物などですね。ただ、宗教儀式というのはあまり視聴覚資料として出回っていないというのと、私は仏教や神道など日本の宗教が専門なので、イスラムなどの自分の専門以外の宗教の資料を探すのは、大学にもなくて、とても大変でした。今回は資料を入れてもらって、もう少しわかりやすくやれるといいかな、と思っています。あとは、人数が多いので、どうなのかな、という部分はあります。それと、宗教をやる科目がほかにないので、隔年になってしまったことが少し心配ですね。

Ⅱ 学生に学んでほしいこと、伝えたいこと
宗教に関する基礎知識をきちんと学んでほしいですね。ただ闇雲に怪しい、とか怖いとか言っていて避けていると、知らない中に巻き込まれてしまうことがあるんです。今、カルトとか流行っていたりするので、そういった基礎知識をしっかりと身につけてほしいんです。知っているということは、大きな武器になりますから。

Ⅱ 学生へのメッセージ
宗教を頭から否定するのは簡単です。でも、なぜ、宗教ができたのか、なぜ、今まで続いてきたのかを知ること、そして考えることによって、自分や社会を考えることにつながってほしいですね。



1 学生の質問に答える頼住准教授

取材報告：教育企画チーム

貸与パソコン相談室 | 附属図書館 | ポータルサイト | WEBシラバスContact Us | Site Map | About This SITE | Security Policy | Privacy Policy

このサイトはお茶の水女子大学 21世紀型文理融合リベラルアーツホームページ運営委員会 が管理しています。詳しくは[このサイトについて](#)をお読み下さい。
Copyright©2007 Ochanomizu University. All Rights Reserved. all illustration by 横山ふさ子